

水利ネットワークと育まれた文化

Lesson

2

ため池

志方西地区には大小のため池が点在していますが、このため池は大きく分けて3つに分類できます。

◆谷池

谷間をせきとめて水をためるため池です。
池の位置が高いため、水田に水を入れるのに便利であり、貯水量も多いです。
奥の池・奥新池(西牧)など

◆川池

川をせきとめて水をためるため池です。
水がたまりやすいので、広い面積を必要としません。普段は川として水を流しておいて、必要な時だけせきとめて利用できます。

◆野池

平地の水のたまりやすい所を選んで、四方に堤をめぐらせ、水をためるため池です。
水のたまりやすい条件を考えてつくられています。
峠の池(横大路)など

予備池

灌漑面積が広く、水が足りない場所では予備池をつくっていました。荒神谷の松の木谷池は原の大池の予備池としてつくられた池です。松の木谷池と大池を結ぶ水路は狭く、またよその土地をとらなければならなかったため、水を送る間は途中の井堰を閉じ、見張りがついて警戒にあたっていたそうです。

中つぎ池

本池と予備池との関係を逆にしたような池が中つぎ池です。中つぎ池は水がむだにならず、配水の調節ができるという点で便利です。

原の皿池もその1つです。大池の水を皿池に入れてから横大路集落内の田んぼに灌漑しています。この皿池は大きな池で、大池の水を入れるだけではなく、西牧方面の池の余水や溝手からもたくさんの水を受けています。

分水工

1つのため池が2つ以上の集落に関係のある場合はいろいろな問題がおきます。分水の問題もその1つです。

原の大池の関係集落は横大路・原・成井・西牧・永室になります。大池に関する経費の分担も水の権利も基準が定められています。そのため、水を分けるのには分水石を使っています。ため池から樋をとって流れ出た水は円形の水たまりで勢いを静め、分水石によって各集落の溝手に分けられる仕組みです。



分水工※1

※1:加古川市志方西地区を対象としたため池を中心とする水辺環境保全に関する研究提案 調査報告書

池の名前

池の名前は地名をそのままとったものが一番多く、次に多いのが池の大小や形からつけたものです。生育している植物の名前をとったものや開墾者の名前をとった池もあります。

古人の工夫

ため池では水を入れるときに、一定の場所に水がぶつかります。雨の日などの落ちてくる水は勢いがあり、この水を受けるところは弱くなるので、その部分の堤を太くつくっています。

伝説 - 蛇が池の鐘

大藤山の裏に蛇が池という池があります。どんな日照りでも水が絶えず、水面に錆が浮いているそうです。ここには長楽寺の古鐘が沈んでいるといわれ、池の主である大蛇がしっかりと抱いているから見ることもできず掘り出すこともできないといわれています。

干ばつの時は雨乞いの祭事として「鐘掘り」といって、池を掘りこの鐘の龍頭をあらわすときと雨が降ると伝えられています。

また、この鐘についてはおもしろい言い伝えがあります。天正の昔、羽柴勢が神吉城を攻めている時、羽柴勢めがけて1本の矢が北から飛んできました。調べてみるとその矢は北へ4kmほどある長楽寺から射られたものであることが分かりました。この矢を射たのは長楽寺の住持でした。羽柴勢は「余程の強弓の者長楽寺にあり」と長楽寺に討つ手をさし向けたそうです。矢を射た住持は、本尊と鐘を背負って寺が焼けるのをあとに大藤山を越えて北へ逃げ、鐘だけはこの池に沈め、自分は本尊を抱いて姿をかくしたと伝えられています。

その他に鐘ではなく本尊を池に沈めたという言い伝えもあるそうです。池に沈めた本尊を掘り出した時に土がついており、洗ってもあらってもその土は落ちなかったそうです。そのため、「泥つき地藏」と呼ばれていたそうです。

洗い場

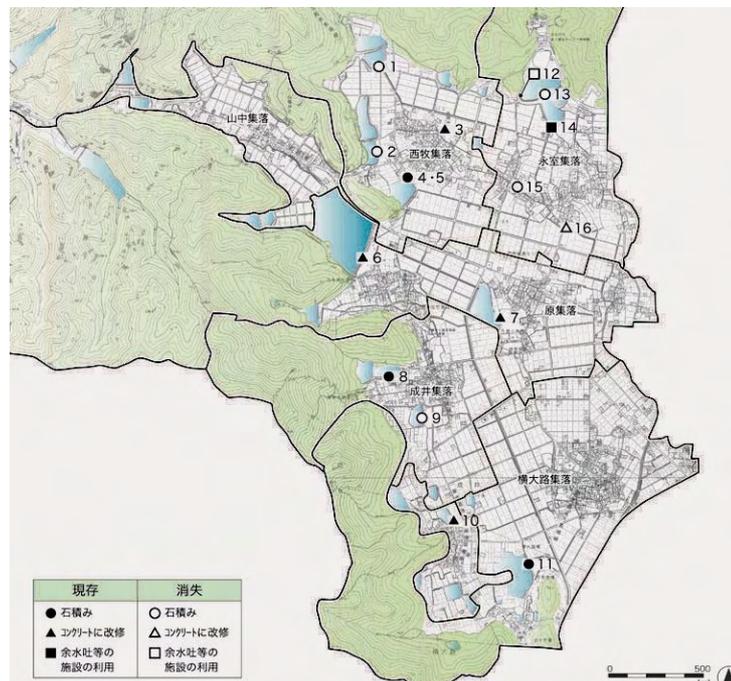
志方西地区にはため池の水を生活に利用するための洗い場(洗濯場)が点在していました。現在もいくつかのため池に洗い場が残っています。

この洗い場は志方西地区において、人々がため池を中心とする水環境を形成し活用してきたことを記憶する施設です。

洗い場は、ため池の水を農業だけではなく、生活においても身近に利用してきたことを示しています。

志方西地区洗い場一覧表

番号	場所	集落	存否	素材	備考
1	奥の池	西牧	消失	石積み	堤体の改修に伴い消失。
2	片山池	西牧	消失	石積み	堤体の改修に伴い消失。
3	藤ノ池	西牧	改修	コンクリート	昔は石積みの延べ石を片持ち状にした洗い場であった。
4	犬立池	西牧	現存	石積み	片持ち状の石積みの洗い場である。
5	犬立池	西牧	現存	石積み	片持ち状の石積みの洗い場である。
6	大池	原	改修	コンクリート	コンクリート階段状の洗い場である。
7	皿池	原	改修	コンクリート	コンクリート階段状の洗い場である。
8	奥の池	成井	現存	石積み	石積み階段状の洗い場である。
9	山池	成井	消失	石積み	取水施設の近くに洗い場があった。
10	長池	西山	改修	コンクリート	改修工事の際につくりかえた。
11	峠の池	横大路	現存	石積み	片持ち状の石積みの洗い場である。
12	ダンベ池	永室	消失	石積み	石積み余水吐の上で洗濯していた。堤体の改修に伴い消失。
13	ダンベ池	永室	消失	石積み	堤体の切れ目の段差を利用して洗濯していた。
14	皿池	永室	現存	石積み	石材でできた余水吐の上で洗濯していた。
15	水路	永室	消失	石積み	水路に延べ石を敷き洗濯していた。ほ場整備により消失。
16	水路	永室	消失	コンクリート	水路にコンクリートで2段の段差を設け、洗濯していた。



水利ネットワーク

志方西地区では、集落ごとにため池を築き、山からの水を貯留します。上流のため池がいっぱいになると下流側のため池に水が流れ込むようになっています。少ない水を余すことなく蓄えるシステムです。

各ため池は水路網でつながっており、集落内を流れ、農業用水として利用されます。

